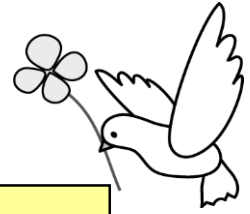




# 平和ってなに？

## ～戦争を知って平和を考えよう～



7月12日は「宇都宮市平和の日」

7月12日～8月15日は「宇都宮市平和月間」です


宇都宮市では、宇都宮空襲があった7月12日を「宇都宮市平和の日」、7月12日から終戦の日の8月15日までを「宇都宮市平和月間」と定め、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えています。この期間中、宇都宮市立図書館では、平和関連の本などを集めたコーナーを開設しています。あわせて、平和を考えるための図書館のリストを作成しました。どうぞご利用ください。


### 戦時中の宇都宮を伝える本

	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">戦争が終わった日 栃木県民が語る八月十五日</td> </tr> <tr> <td>著者</td> <td colspan="3">編集工房随想舎/編</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td colspan="3">随想舎</td> </tr> <tr> <td>分類</td> <td>K200.7/ズ</td> <td>出版年</td> <td>1989年</td> </tr> <tr> <td>所蔵館</td> <td colspan="3">中央・東・南・河内</td> </tr> </table>	タイトル	戦争が終わった日 栃木県民が語る八月十五日			著者	編集工房随想舎/編			出版社	随想舎			分類	K200.7/ズ	出版年	1989年	所蔵館	中央・東・南・河内			<p>昭和20年8月15日終戦の日の栃木県民の体験談。空襲・食糧難・学童疎開・勤労動員そして、肉親・友人の出征・戦死など、戦争が遠く離れた時代や地域のものではないこと、平和の大切さを知る。</p>
タイトル	戦争が終わった日 栃木県民が語る八月十五日																					
著者	編集工房随想舎/編																					
出版社	随想舎																					
分類	K200.7/ズ	出版年	1989年																			
所蔵館	中央・東・南・河内																					
	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">うつのみやの空襲</td> </tr> <tr> <td>著者</td> <td colspan="3">宇都宮市教育委員会/編</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td colspan="3">宇都宮市教育委員会</td> </tr> <tr> <td>分類</td> <td>K210.7/ウ</td> <td>出版年</td> <td>2001年 2011年</td> </tr> <tr> <td>所蔵館</td> <td colspan="3">中央・東・南・上河内・河内</td> </tr> </table>	タイトル	うつのみやの空襲			著者	宇都宮市教育委員会/編			出版社	宇都宮市教育委員会			分類	K210.7/ウ	出版年	2001年 2011年	所蔵館	中央・東・南・上河内・河内			<p>宇都宮市の「戦災記録保存事業」の報告書。近代の宇都宮の歴史から、戦後の平和への道のりまでを、多数の写真や資料、市民への聞き取り調査などでわかりやすく記録している。</p>
タイトル	うつのみやの空襲																					
著者	宇都宮市教育委員会/編																					
出版社	宇都宮市教育委員会																					
分類	K210.7/ウ	出版年	2001年 2011年																			
所蔵館	中央・東・南・上河内・河内																					
<p>No Image</p>	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">宇都宮空襲の記憶</td> </tr> <tr> <td>著者</td> <td colspan="3">宇都宮市平和委員会/編</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td colspan="3">宇都宮市平和委員会/編</td> </tr> <tr> <td>分類</td> <td>K390/ウ</td> <td>出版年</td> <td>2005年</td> </tr> <tr> <td>所蔵館</td> <td colspan="3">中央・東・南</td> </tr> </table>	タイトル	宇都宮空襲の記憶			著者	宇都宮市平和委員会/編			出版社	宇都宮市平和委員会/編			分類	K390/ウ	出版年	2005年	所蔵館	中央・東・南			<p>昭和20年7月12日に起きた宇都宮大空襲当日の記憶を中心に、市民が自身の戦争体験をつづった記録集。当時の宇都宮市で起きた、九つの貴重な体験を収録している。</p>
タイトル	宇都宮空襲の記憶																					
著者	宇都宮市平和委員会/編																					
出版社	宇都宮市平和委員会/編																					
分類	K390/ウ	出版年	2005年																			
所蔵館	中央・東・南																					
	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">二荒山は炎の中に</td> </tr> <tr> <td>著者</td> <td colspan="3">宇都宮平和祈念館建設準備会/編</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td colspan="3">随想舎</td> </tr> <tr> <td>分類</td> <td>K390/ウ</td> <td>出版年</td> <td>1992年</td> </tr> <tr> <td>所蔵館</td> <td colspan="3">中央・東・南・河内</td> </tr> </table>	タイトル	二荒山は炎の中に			著者	宇都宮平和祈念館建設準備会/編			出版社	随想舎			分類	K390/ウ	出版年	1992年	所蔵館	中央・東・南・河内			<p>宇都宮空襲・戦災の実態を、多くの図版や写真、絵を使い、わかりやすく解説。市民による宇都宮空襲の切実な体験談を交え、身近なところから平和を考える1冊。</p>
タイトル	二荒山は炎の中に																					
著者	宇都宮平和祈念館建設準備会/編																					
出版社	随想舎																					
分類	K390/ウ	出版年	1992年																			
所蔵館	中央・東・南・河内																					
	<table border="1"> <tr> <td>タイトル</td> <td colspan="3">実録!宇都宮大空襲</td> </tr> <tr> <td>著者</td> <td colspan="3">徳田浩淳/著</td> </tr> <tr> <td>出版社</td> <td colspan="3">宇都宮平和祈念館をつくる会</td> </tr> <tr> <td>分類</td> <td>K390/ト</td> <td>出版年</td> <td>1999年</td> </tr> <tr> <td>所蔵館</td> <td colspan="3">中央・南</td> </tr> </table>	タイトル	実録!宇都宮大空襲			著者	徳田浩淳/著			出版社	宇都宮平和祈念館をつくる会			分類	K390/ト	出版年	1999年	所蔵館	中央・南			<p>当時市役所に勤務していた郷土史家の徳田浩淳氏が、宇都宮大空襲のあった7月12日から19日までの一週間を、自身と家族の体験を中心に克明に記録している。</p>
タイトル	実録!宇都宮大空襲																					
著者	徳田浩淳/著																					
出版社	宇都宮平和祈念館をつくる会																					
分類	K390/ト	出版年	1999年																			
所蔵館	中央・南																					


次代へ読み継がれていく本


	タイトル	黒い雨	原爆の激しさ、恐ろしさを声高に表現する作品が多い中、この作品は被爆者の日常をただ淡々と描いている。市井の人の上に冷たく降り注ぐ黒い雨。静かな光景が原爆の残酷さを際立たせ、平和の大切さを強く訴えている。(野間文芸賞受賞) (埼玉福祉会発行の大活字本もある)		
	著者	井伏鱒二/著			
	出版社	新潮社 (文庫)			
	分類	F/イブセ.マ		出版年	2003年
	所蔵館	中央・東・南・上・河内			


	タイトル	アンネの日記	第二次世界大戦下、ユダヤ人ゆえに隠れ家での生活をしいられるアンネ。13歳から約2年間にわたりつづられた日記では、辛くても、いつかまた幸福を見いだせると信じ、未来に希望を抱くことで自分を保つアンネの健気さや強さにふれられる。 (ユネスコ記憶遺産)		
	著者	アンネ・フランク/著 深町眞理子/訳			
	出版社	文藝春秋			
	分類	945/フ		出版年	2003年
	所蔵館	中央・東・南・上河内・河内			


	タイトル	夜と霧	第二次世界大戦中、心理学者・精神学者だった著者は、ナチスにより強制収容所に収容された。強制労働、懲罰、「選抜」。過酷な現実にある被収容者の心の反応を冷静に分析。「わたしたちは、おそらくこれまでどの時代の人間も知らなかった「人間」を知った。」と記している。		
	著者	ヴィクトール・E・フランク/著 池田香代子/訳 (霜山徳爾/訳)			
	出版社	みすず書房			
	分類	946/フ		出版年	2002年 (1985年)
	所蔵館	中央・東・南・上河内・河内			


戦争を知り、平和を願う本


	タイトル	本土空襲全記録 (NHKスペシャル 戦争の真実シリーズ1)	本土空襲はなぜ無際限にエスカレートし、約47万人もの多くの命が奪われることになったのか。空襲のおそろべき実態を可視化することで「本土空襲」の全貌に迫る。		
	著者	NHKスペシャル取材班/編			
	出版社	KADOKAWA			
	分類	210.7/エ		出版年	2018年
	所蔵館	中央・東・南・上河内・河内			


	タイトル	戦争をいかに語り継ぐか	戦後75年。昭和から平成、令和へと時代が変わり、戦争体験者から戦争を語り継ぐことが難しくなりつつある今、戦争を次世代へ「語り継ぐ」ことを様々な面から検証し、歴史の忘却に抗う。		
	著者	水島久光/著			
	出版社	NHK出版			
	分類	210.7/ミ		出版年	2020年
	所蔵館	中央・東・南			


	タイトル	なぜ、世界から戦争がなくなるのか?	人気のテレビ番組を大活字版に。戦争がビッグビジネスであり、お金のために、政治家もマスコミも経済団体も手を結び、何も知らない一般人を戦争へと誘導していく恐ろしさを指摘。どうすれば戦争にまきこまれずに済むのか、考えずにはいられない。 (新書版は中央・南・河内あり。)		
	著者	池上彰/著			
	出版社	SBクリエイティブ株式会社			
	分類	319.8/イ		出版年	2020年
	所蔵館	中央			


	タイトル	われらが胸の底		<p>作家の澤地久枝と落合恵子が、10時間以上語り合った記録。生き立ちや経験、若い人達への伝言まで、時に映画や本の話題を交え、一見とりとめのない会話の背景に、戦時下に生まれた二人の戦争と平和への思いが見える。</p>	
	著者	澤地久枝/著 落合恵子/著			
	出版社	かもがわ出版			
	分類	319.8/サ	出版年		2016年
	所蔵館	東・南			


	タイトル	ニ〇年後の若ものに伝える平和へのメッセージ		<p>1945年4月15日に「川崎大空襲」を7歳で経験した著者が、“戦争を語れる最後の世代”の人々から、戦争を知らない世代へ向けた数々のメッセージを紡ぐ。</p>	
	著者	津田光輝/編著			
	出版社	時潮社			
	分類	319.8/ツ	出版年		2019年
	所蔵館	中央・東			

	タイトル	「駅の子」の闘い		<p>戦争により親を失い、駅にたむろしていた戦争孤児たちのルポルタージュ。終戦の混乱の中、世間から冷酷な目を向けられながらも生き延びた当事者たちへのインタビューで戦争の悲惨さや平和の大切さを語る。</p>	
	著者	中村光博/著			
	出版社	幻冬舎			
	分類	369.3/ナ	出版年		2020年
	所蔵館	中央・東・南			


	タイトル	日本の島 産業・戦争遺産		<p>基地跡や砲台跡などの戦争遺跡が残されている日本各地の20の島を紹介。島の地図と現在の写真とともに、どのような戦いの舞台となったのか、歴史的背景がつつられている。</p>	
	著者	斎藤潤/著			
	出版社	マイナビ出版			
	分類	709.1/サ	出版年		2018年
	所蔵館	中央・東・南			


	タイトル	幻のオリンピック		<p>1940年、戦争により中止となった東京オリンピック。活躍を期待された選手たちは、戦場へと駆り出され、戦意高揚に利用された拳闘、命を落とした。戦後発見された資料から、スポーツに全身全霊をかけたアスリートと指導者にとっての戦争やその人生を見つめる。平和を考え直すきっかけとなる一冊。</p>	
	著者	NHKスペシャル取材班/著			
	出版社	小学館			
	分類	780.6/ニ	出版年		2020年
	所蔵館	中央・東			


	タイトル	十七字の戦争—川柳誌から見た太平洋戦争と庶民の暮らし—		<p>川柳誌『番傘』『きやり』は、用紙統制などの過酷な太平洋戦争下でも絶えることなく発行され続けた。日常を凝縮した十七文字の中に、緊迫していく世相と戦争への庶民の静かな抵抗が浮かび上がる。</p>	
	著者	田村義彦/著			
	出版社	かもがわ出版			
	分類	911.4/タ	出版年		2018年
	所蔵館	中央			


	タイトル	原爆詩集		<p>全世界の原子爆弾を憎悪する人々に捧げられた詩集は「ちちをかえせ ははをかえせ」…の序で始まる。自らの被爆体験をもとに戦争や原爆の惨禍と平和への願いを訴える著者は、「この詩集はすべての人間を愛する人たちへの贈り物であると共に、警告の書でもある」と記している。</p>	
	著者	峠三吉/著			
	出版社	岩波書店(文庫)/日本ブックス/青木書店			
	分類	911.5/ト	出版年		2016年 2011年 1995年
	所蔵館	中央・東・南			

	タイトル	トンネルの森1945		<p>イコの疎開先の家のそばにはトンネルの森があった。疎開先での地元の子どもたちとの交流や父親の出征と徴用、食料不足、そして空襲は疎開先にも暗い影を落とす。イコは辛い時、トンネルの森で兵隊さんにあう。著者の戦争体験による物語。</p>	
	著者	角野栄子/著			
	出版社	KADOKAWA			
	分類	F/カドノ.エ	出版年		2015年
	所蔵館	中央・東・南			

	タイトル	不死身の特攻兵 軍神はなぜ上官に反抗したか		<p>特攻隊で9回出撃して、9回生きて帰ってきた人がいる。著者はある本の記述から、その人を知り、直接取材し、小説とフィクションという二つの形で本にした。 戦争という非常事態時でも生き抜いた特攻隊員を知ることで、改めて「生きる」ということ、「平和」ということを考えたい。</p>	
	著者	鴻上尚史/著			
	出版社	講談社			
	分類	916/コ	出版年		2017年
	所蔵館	中央・東・南・上河内・河内			

	タイトル	戦争は女の顔をしていない		<p>第二次世界大戦では百万人をこえるソ連女性が従軍し、看護婦や軍医としてのみならず兵士として武器を手にして戦った。五百人以上の従軍女性から惨状を聞き取り、「語られてこなかった」戦争の真実を明らかにした名著。</p>	
	著者	スヴェトラーナ・アレクシエーヴィチ/著 三浦みどり/訳			
	出版社	岩波書店			
	分類	986/ア	出版年		2016年
	所蔵館	中央・東・南			

	タイトル	この世界の片隅に 上・中・下		<p>広島に生まれ呉に嫁いだすずの戦時下の日常生活を丹念に描いた作品である。 配給や非常袋の中身、防空壕の様子など当時の状況を知ることができる。なにより生きていくための知恵や工夫、死をめぐる哀しみや葛藤、戦時下にあった人々の語りつくせない思いに触れられる。</p>	
	著者	こうの史代/著			
	出版社	双葉社			
	分類	C/コウノ	出版年		2008年(上・中) 2009年(下)
	所蔵館	中央・東・南・河内			

	タイトル	第二楽章		<p>世界で初めて被爆地となった「ヒロシマ」を、さまざまな女性がさまざまな視点で記した「原爆詩」の朗読CD。核兵器のない平和な世界を願い、女優・吉永小百合が美しい音楽にのせて朗読している。</p>	
	著者	吉永小百合/朗読			
	出版社	ビクターエンタテインメント			
	分類	711.1/ヨシナ	出版年		1997年
	所蔵館	中央・東			

発行 令和3年7月 編集・発行 宇都宮市立図書館  
 問合せ 宇都宮市立中央図書館 〒320-0845 宇都宮市明保野町7-57 電話 028-636-0231